《Lesson 2》否定文に続く付加疑問文

≪否定文に続く付加疑問文≫

(1) 否定文に「～ですよね」「～でしょ」と訳される言い方。

＜例＞ 彼女は猫が好きではないのですよね。
あなたは東京に行ったことがないのでしょ。

(2) 肯定文に続く付加疑問文に似ているが、違いは「否定文＋カンマ」の後に "does she?" や "have you?" のような「肯定の短縮疑問形」が使われる。

否定文, + 肯定の短縮の疑問形？

（～ではないですよね / ～ではないのでしょ）

＜例＞ She does not (doesn't) like cats, **does she?** （彼女は猫が好きではないのですよね）
You have not (haven't) been to Tokyo, **have you?** （あなたは東京に行ったことがないのでしょ）

【否定文に続く付加疑問文：作り方】
ステップ①：「～ですよね」「～でしょ」の部分を除いた文を作る。
ステップ②：文の最後をカンマにし、肯定の短縮の疑問形を足す。

＜例1＞「彼女は猫が好きではないのですよね」

ステップ①： 「～ですよね」「～でしょ」の部分を除いた文を作る。

「彼女は猫が好きではないです」

She does not (doesn't) like cats.

ステップ②：文の最後をカンマにし、肯定の短縮の疑問形を足す。

She does not (doesn't) like cats, **does she?**

＜例2＞「あなたは東京に行ったことがないのでしょ」

ステップ①： 「～ですよね」「～でしょ」の部分を除いた文を作る。

「あなたは東京に行ったことがないのです」

You have not (haven't) been to Tokyo.

ステップ②：文の最後をカンマにし、肯定の短縮の疑問形を足す。

You have not (haven't) been to Tokyo, **have you?**

本ファイルの著作権は、著作者である藤井拓哉に帰属します。本ファイルを利用したことによる直接あるいは間接的な損害に関して、著作者はいっさい責任を負いかねます。利用は利用者個人の責任において行ってください。